

(病弱)

# 各教科等チェックシート

学部・学年	氏 名
高等部〇年	〇〇 〇〇

中学部・高等部・中学校版
--------------

教科等	内 容	知的障害がある児童生徒						知的障害がない児童生徒						備考				
		小学部 (段階)			中学部 (段階)			小学校 (学年)			中学校 (学年)			具体的な指導内容	指導場面 教科・単元等			
		1	2	3	1	2	3	1	2	3	4	5	6			1	2	3
生活 (特別支援学校)  生活科	ア 基本的生活習慣 イ 安全 ウ 日課・予定 エ 遊び オ 人との関わり カ 役割	●															前期の反省・進路を考える・後期の目標を考える・〇〇祭の準備	特別活動・日常生活の指導(朝の会)
※ (特)2段階 国語		●															記者から 本生徒は自立活動を主とする教育課程で学ぶ生徒のため、指導場面も「自立活動」の時間が中心となった。	自立活動
社会 (中 地歴公)  社会	知識及び技能 ア 社会生活のきまり イ 公共施設と制度 ウ 地域の安全 エ 産業と生活 オ 我が国の地理や歴史 カ 外国の様子																	
算数・数学 ※ (特)2・3段階 同観点 算数	A 数と計算 (中学校 数と式) B 図形 C 測定 (中学校 関数) D データの活用 数学的活動 (中学校・中学部)	●																自立活動
理科 (小学校3～6年 A 物質・エネルギー B 生命・地球)	A 生命 B 地球・自然 C 物質・エネルギー																	
音楽	A 表現 B 鑑賞	●																音楽
図画工作 (中 美術)	A 表現 B 鑑賞	●																自立活動
技術・家庭 (小学校 家庭)	A 家族・家庭生活 (中 技術分野) B 衣食住の生活 (中 家庭分野) C 消費生活・環境																	
職業・家庭 (中学部)	A 職業分野 B 家庭分野																	
保健体育 (小学部 体育)  体育	A 体づくり運動 B 器械運動 C 陸上運動 D 水泳運動 E 球技 F 武道 G ダンス H 保健	●																自立活動
外国語 外国	知識及び技能 思考力・判断力・表現力等	●																自立活動
外国語活動 ※(2)																		
特別の教科道徳※(1)																		
総合的な学習の時間																		
特別活動																		

記者から  
クリックすると各教科の目標及び内容の段階一覧表を見ることができるので便利だった。全て確認して、小学部1段階とした。

記者から  
本生徒は自立活動を主とする教育課程で学ぶ生徒のため、指導場面も「自立活動」の時間が中心となった。

記者から  
各教科等チェックシートに入力する際、何度も段階一覧表を確認した。教科ごとに印刷し、学習内容を検討したり、学習指導案を作成したりする際、教科の目標及び内容を意識することができた。

※(1) 「外国語活動」：知的特別支援学校の小学部において、必要に応じて設けることができる。  
 ※(2) 「特別の教科 道徳」：小学校に準ずる(原則同一、他配慮事項あり。)

(病弱)

# 自立活動フローシート

学部・学年 高等部〇年 氏名 ○〇 ○〇

### 記載者から

生徒の実態について、この自立活動フローシートを使い、自立活動6区分を整理したことで、偏りのない全体像を捉えることができた。特に、「心理的な安定」や「人間関係の形成」の内容について記載することで、対象の生徒が人との関わりが好きだということが改めて見えてきた。

発達の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

実態把握	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院生活中はベッド上で過ごすことが多い</li> <li>・自力での姿勢変換が難しく、同じ姿勢(側臥位)で過ごすことが多い</li> <li>・四肢の緊張が強く、側弯進行が見られ、体幹保持ができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し行い慣れた活動では、見通しをもち、期待して笑顔になる。</li> <li>・悲しい場面や音楽で涙を流すことがある。</li> <li>・歌、音楽、揺れ、単純な言葉の繰り返しが好きで、気持ちが高揚すると大きな声を出して気持ちを表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人との関わりが好きで、慣れた人が近づくと発声や笑顔で喜びを表現している。</li> <li>・はっぴを羽織ったり帽子を被ったりする等、いつもと違う装いで近づくと驚いた表情を見せる。</li> <li>・見知らぬ人や慣れない人には緊張した表情を見せる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慣れた場所では笑顔を見せ、落ち着いて活動に参加することができる。</li> <li>・周りをよく見ており視界に入る人や物が気になると、そちらに気が向き、じっと見つめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気になる物に手を伸ばしたり、取っ手をつかんで引っ張ったりすることができる。</li> <li>・肘をテーブルにつき肘支点で腕を動かすことが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「はい」の時は笑顔</li> <li>・「いいえ」の時は下唇を突き出すことが多い</li> <li>・呼名や教師の言葉かけに、喃語のような発声で応答することができる。</li> </ul>

3年後にめざす姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ほどよい筋緊張を保ち、車椅子やベッド上で過ごすことができる。</li> <li>○多くの人との関わりを楽しみにして、他者とのやりとりの中で、自分の気持ちを表情や発声、手の動きで表現することができる。</li> </ul>
----------	--

長期目標(年間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○可動域を広げ、側弯進行を緩やかにできるように、身体の緊張を緩めることができる。</li> <li>○担任以外の教師や友達にも慣れ、自分の気持ちを表情や発声、手の動きで表現することができる。</li> </ul>
----------	---

指導目標を達成するために必要な項目の選定

選定した項目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
①生活のリズムや生活習慣の形成	①生活リズムの安定	①他者とのかかわりの基礎	①保有する感覚の活用	①姿勢と運動・動作の基本技能	①コミュニケーションの基礎的能力	
②病気の状態の理解と生活管理	②病気の理解	②他者の意図や感情の理解	②感覚や認知の特性への対応	②姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用	②言語の受容	
③身体各部の状態の理解と養護	③障害の理解			③日常生活に必要な基本動作の活用	③言語の形成	
④障害の特性と生活環境				④コミュニケーション能力	④コミュニケーション手段の選択と活用	
⑤健康状態の改善				⑤基本動作と生活動作	⑤状況に応じたコミュニケーション	

### 記載者から

フローシートを活用したことで、年度当初に設定し「長期目標」  
○新しい友達や担任に慣れることができる  
○側弯の進行を緩やかにできるように、身体の緊張を緩める  
○自分の気持ちを表情や発声、手の動きで表現する  
について、整理し、見直すきっかけになった。

コピーして利用を

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の支援を受けながら、左体側を伸ばし、体幹を広げる。教師の膝の上で腹臥位になり、教師の支援を受けながら、首や肩、腰部位、股関節の緊張を緩める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子に座った姿勢で、輪抜きに取り組む。給食献立の写真カードを輪に貼り、輪を抜くことで給食の献立を発表する。教師は途中まで手の動きをガイドし、最後の数センチは自力で抜けるように見守る。抜けたら、できたことを伝えて賞賛する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな活動を繰り返し行う中で、人との関わりを楽しみ、教師とのやりとりに応じる力を定着する。関わる教師は共感関係を大切に、意思表現を受け止めて、言葉で返していくようにする。表情や発声、手の動きで気持ちを伝えることができたら賞賛する。見通しをもち、安心して取り組んだり、活動に期待したりできるよう、言葉でわかりやすく伝えたり、写真を見せたりする。</li> </ul>
----------	---	--	--

指導場面(各教科・単元名)	教科等	単元名等	教科等	単元名等	教科等	単元名等
	自立活動	個別の学習(からだ)	自立活動	ジャングルを探検しよう	自立活動	仁戸名祭に向けて
	自立活動	右手を使おう	自活	『ぶかぶか』物語の世界を感じて伝えよう	特活	淑徳大学生と交流しよう

※ 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)より抜粋及び参照 (P.160~163)

この内容で授業に取り組んだ。

目標達成シート

学 部	高等部	氏 名	
-----	-----	-----	--

実 態 把 握	学習上または生活上の困難	背景要因
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四肢の緊張が強いため、姿勢変換が難しく、クッションを使って、同じ姿勢（側臥位）で過ごすことが多い。</li> <li>・車いす座位を長時間行くと、左側に倒れてくることがある。机に腕や肘をつくことで体を支えており、机を外すと姿勢保持が行えなくなる。</li> <li>・車いすのヘッドレストに肩が当たってしまう。</li> <li>・物に対する集中力が短い。</li> <li>・摂食の際に舌突出がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日に数回体位変換はあるが、四肢の緊張が強く、自分で寝返りができないため姿勢変換が難しく、同じ姿勢で長時間過ごすことが多い。</li> <li>・身長が急激に伸び、側弯の進行が顕著であるため、体幹を保持できない。</li> <li>・動く物や人に振られやすい。</li> <li>・身体の緊張が強く、「食べよう」とすると舌が出たり、下顎を大きく開いたりする。</li> </ul>

長期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新しい友達や担任に慣れることができる。</li> <li>○側弯の進行を緩やかにできるように、身体の緊張を緩める。</li> <li>○自分の気持ちを表情や発声、手の動きで表現する。</li> </ul>
------	--

短期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・箱いすに座り自ら顔を起こし、保つことができる。</li> <li>・上唇を下ろして補食することができる。</li> </ul>
------	---

健康の保持 (3) 身体各部の状況理解と養護に関すること。	心理的な安定 (1) 情緒の安定に関すること。	人間関係の形成 (3) 自己の理解と行動の調整に関すること。	環境の把握 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。	身体の動き (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。	コミュニケーション (2) 言語の受容と表出に関すること。
----------------------------------	----------------------------	-----------------------------------	--	------------------------------------	----------------------------------

	からだ	摂食指導	単元学習
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部位の緩め</li> <li>・寝返り</li> <li>・箱椅子座位</li> <li>・箱椅子座位での頭部安定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関節訓練</li> <li>・直接訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・追視</li> <li>・前庭覚、固有覚への刺激</li> <li>・光刺激</li> <li>・触覚刺激</li> <li>・道具の操作</li> </ul>

指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仰臥位、側臥位で体幹、四肢、首、背中、指先の緊張を緩める。</li> <li>・左右同回数寝返りを行う。</li> <li>・教師の膝の上で腹臥位になり、体側部や背中、首の緊張を緩める。</li> <li>・側弯部を伸ばしながら箱座位になり、頭部の保持ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舌訓練を行う。</li> <li>・摂食時は口を閉じた状態で食物の乗ったスプーンで下唇に合図をする。</li> <li>・口が開いたら下唇に沿わせながらスプーンを入れる。</li> <li>・過開口になりすぎないように、下顎の介助を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目の動き方を見ながら、物をゆくりと動かす。</li> <li>・寝返りなどで前庭覚を刺激する。</li> <li>・手指のマッサージで緊張を緩めてから、絵の具を付けたスポンジや筆で紙に色を付ける。</li> </ul>
------	---	--	---

評価	
----	--

